



議会だより

ていすかす

97号

発行：登別市議会／編集：広聴・公開委員会／発行日：2019.6.1

登別市議会

で

検索

または



市議会ホームページで、議会の活動や各種情報をご覧くださいませ

平成31年4月21日に行われた登別市議会議員選挙において、新たに19人の議員が選出されました。議長・副議長就任のごあいさつと全議員の紹介、各委員会構成をお知らせします。

副議長就任ごあいさつ



副議長

すぎお なおき
杉尾 直樹

初めに今回の市議会議員選挙は前回よりも投票率が低下しており、これは市議会そのものへの不満や無関心とも取れ、われわれ議員はそのことを真摯に受け止めなければなりません。

本市の議員構成は他市と比較して平均年齢が若く、また先輩議員の努力もあり議会改革が進んだ先進的議会といえますが、どれだけ仕組みやルールを改正しても、そこに市民満足という結果がなければ単なる自己満足でしかあり

ません。

今回の選挙において選ばれたわれわれ議員が一丸となり、さまざまな課題に対し行政運営や市民の意見を正確に把握し、課題解決に向け活発に議論を重ね、市民の皆さまが安心・安全に暮らせるまちとなるよう努める所存であります。

副議長として議長を支えながら、議会運営をより市民にわかりやすくするために全力を尽くしますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

議長就任ごあいさつ



議長

くどう くにお
工藤 倶二雄

本市は来年市制施行50周年を迎えますが、本市行政は少子高齢化、教育、市内経済、老朽化施設などさまざまな課題を抱え、厳しい財政状況となっております。これらを打開すべく、二元代表制の議会として、市政へのチェック機能としての責務を果たしていく所存であります。

そのためには議会改革を止めてはいけないものと考えております。議会基本条例の順守とさらなる推進のため、市民に身近な「開かれた議会運

営」に努め、市民の皆さまの期待と信頼に応えられる議会となるよう、絶えず変化していく必要があると思っております。

今後も議員19名の多様な視点と柔軟な思考を結集し、議会全体の総合力で豊かな社会構築のために誠心・誠意努力を重ねてまいりますので、市民の皆さまのご指導とご協力をお願い申し上げます、就任のあいさつとさせていただきます。

議員の紹介

(五十音順で掲載)



おぐり よしろう
小栗 義朗
公明党



いの まさおみ
井野 正臣
市民・前進



いとう けんた
伊藤 健太
市民・前進



あだち ともや
足立 知也
市政クラブ21



つじ ひろし
辻 弘之
市政クラブ21



ちだ ふみたか
千田 文孝
市民・前進



たなか かんじ
田中 寛志
市政クラブ21



ささき くみこ
佐々木 久美子
日本共産党



こんの まさひろ
今野 幹大
公明党



むらい としゆき
村井 寿行
公明党



みやたけ しよくこ
宮武 祥子
市政クラブ21



にへい ひでゆき
二瓶 秀幸
市民・前進



なり た あきひろ
成田 昭浩
市民・前進



てん じんばやし よしひこ
天神林 美彦
市民・前進



わたなべ つとむ
渡辺 勉
日本共産党



わか き やすお
若木 康夫
市政クラブ21



よね た とみこ
米田 登美子
市民ネットワーク

予算・決算委員会

委員長 天神林 美彦
副委員長 若木 康夫

議長を除く全議員で構成
(決算審査時は、議長及び監査委員を除く全議員で構成)

議会運営委員会

委員長 二瓶 秀幸
副委員長 辻 弘之

天神林 美彦 ・ 渡辺 勉
村井 寿行 ・ 千田 文孝
若木 康夫 ・ 宮 千賀 ・ 武 祥子

生活・福祉委員会

委員長 千田 文孝
副委員長 若木 康夫

渡辺 勉 ・ 杉 尾 直樹
伊藤 健太 ・ 今野 幹大

総務・教育委員会

委員長 小栗 義朗
副委員長 佐々木 久美子

天神林 美彦 ・ 辻 弘之
井野 正臣 ・ 足立 知也

広聴・公開委員会

委員長 井野 正臣
副委員長 佐々木 久美子

米田 登美子 ・ 足立 知也
伊藤 健太 ・ 今野 幹大

観光・経済委員会

委員長 宮武 祥子
副委員長 成田 昭浩

米田 登美子 ・ 二瓶 秀幸
村井 寿行 ・ 田中 寛志

※議会選出の監査委員に辻 弘之議員が選出されました。

予算審査特集 平成31年度予算を問う



平成31年第1回定例会において、3月13日～15日、18日の4日間、予算・決算委員会を開き、平成31年度の予算関連議案の審査を行いました。
委員16名から延べ180項目にわたる質疑の後、総括質疑を行い、審査は合計で約18時間30分に及びました。
その結果、国民健康保険特別会計予算、学校給食事業特別会計予算、一般会計予算は採決により可決、そのほかは全会一致で可決しました。

平成31年度 予算審査の概要

一般会計予算に
附帯意見を付し可決



平成31年度の予算審査は4日間にわたり国民健康保険などの5特別会計、水道・下水道・簡易水道事業の各公営企業会計および、一般会計の審査を「予算議案および決算認定議案に係る審査指針」に基づき行いました。国民健康保険特別会計など、全特別および企業会計において、今後のあり方などをただしました。
また、5億円の財源不足が生じ、財政調整基金などの取り崩しにより補填された21億2千万円の一般会計予算では、130以上の項目にわたって事業内容や見解をただしました。
最後に2会派の総括質疑を行い、財政運営を根本的に見直す必要性や市税収入確保の考えなどをただし可決しました。採決後、都市計画マスタープラン更新事業費については、人口減少・少子高齢化の将来予測を十分精査し、具体的数値を示すことを求めました。さらに、本庁舎建設基本計画策定事業費、公共施設等長寿命化計画策定事業費、市営住宅等長寿命化計画策定事業費、都市計画



総括質疑

市長の強い
リーダーシップの発揮を
市民・前進

歳入不足で財政調整基金5億円を取り崩した予算編成を受け、今後の財政運営をただしました。
財政健全化は必須であり、新しい事業ができない状況である。今後、第3セクター等改革推進債の償還が2023年には終了すると改善される見込みの一方、社会保障費の増加や、本庁舎など建設事業の費用に多額の財源が必要であるが、現在、試算には見込んでいないとの答弁でした。

事業の改廃やスクラップアンドビルドによる事務事業の効率化、職員の労働条件や労働時間の適正化、超過勤務の偏りなど職員の負担軽減とモチベーションの向上に向けた見解をただしました。

各種補助金や町内会への支援、町内会未加入者との公平感に対する行政の支援策のあり方を見解を求めました。

総合計画と都市計画マスタープラン、公共施設整備方針、各種個別計画との関連性や、各種耐震化の予算化を行っているものの、まちづくりのグランドデザインが見えないなど、抜本的な対策がなされていない点を指摘し、市長のリーダーシップの発揮を強く求めました。
(工藤・千田)

マスタープラン更新事業費、教育施設長寿命化計画策定事業費、小中学校耐震化・改修事業費については、ランニングコストと利用状況を十分精査し、具体的数値も示した上で、事業に取り組みことを求める附帯意見を付しました。
(松山)

予算・決算委員会（平成31年度予算審査）総括質疑、各委員の質疑

総括質疑

厳しさを増す財政状況の
対策は

市政クラブ21

質 厳しい予算編成の中、今後の人口減少や高齢化が一層進行することを考え、歳入の先細りや歳出の増大が懸念される点についての考えは。

答 歳入のうち市税については、市民税の納税義務者数が減少傾向にある一方、現状では1人あたりの納税額が伸びているほか、法人市民税に関しても景気の影響から増加傾向にあり、全体として見ると微減にとどまっている。

しかし、今後の人口減少の進行により、市税の収入規模は減少傾向で推移すると認識している。

また歳出については、急速に進行する高齢化を背景に、後期高齢者の療養給付費負担金や介護保険特別会計への繰出金の増加が見込まれるほか、幼児教育無償化や共働き世帯の増加などにより、子育てに係る給付費の増加が見込まれるなど、社会保障費全般において、増加が見込まれると予想している。

他にも市役所本庁舎や消防本署建て替えなどの大型事業も控え、既存の中期財政見通しの見直しや、次期中期財政見直しを行うことに加え、より経営的視点で横断的な行政経営にあたるなどの答弁がありました。

(杉尾)

国民健康保険に関すること

国保税に国の財政負担の要求を

質 国保財政は、市町村と国・道の負担と国保加入者の国保税により成り立っていますが、国の財政負担が削減され、加入者の負担が大きくなり生活を圧迫しています。加入者の命と健康を守る視点から、国の負担割合を以前のレベルに戻すように市から要望するよう求めました。また、加入者にとって家族の人数割（均等割）の負担が大きく、生活を圧迫しているので、他市町村でも実施している負担軽減を本市でも実施するよう求めました。

(渡辺)

学校給食に関すること

給食費が他自治体より高い理由は

質 近隣自治体の一食当たりの給食費は。

答 室蘭市小学生235円、中学生281円で、本市は小学生270円、中学生322円。

質 本市の給食費が高い理由は。

答 給食センターに、ご飯を炊く設備や揚げ物を揚げるフライヤーなどの設備がなく、自前で調理ができれば一食当たりの単価を抑えることができるが、米飯・副食を外注しなければならぬため、単価が高くなっている。

(佐々木)

学校給食センターの整備方針は

質 学校給食センターの工事請負費の予算が計上されているが、昨年、広域化の検討をするという方針が示された中、施設設備の更新が適切なのか。

答 昨年、室蘭市学校給食センターと課題などの情報交換を行った。広域連携は老朽化が進む施設の建て替え手段の一つとして協議は続けていきたい。現施設については、補修を行いながら10年間使用を続けていく。

(米田)

水道に関すること

簡易水道事業経営戦略は

質 経営戦略を見ると非常に厳しい経営内容と感じた。耐震化率も2%程度と低い。施設の整備と今後の給水人口給水量をどう捉えているのか。

答 アセットマネジメント手法を導入し策定した施設整備計画に基づき、計画的に整備していく。今後の給水人口は減少が見込まれているものの、給水量については、対象地区は事業用、営農用などが大半を占め、家事用水量が少ないことから、現状から大幅な減少はないと考えている。

(工藤)



▲登別市学校給食センター

予算・決算委員会 (平成31年度予算審査) 各委員の質疑

生活・福祉に関する質問

ふるさとまちづくり応援寄付金経費は

質 平成31年度の寄付金額の見込みは。

答 3億円を見込んでいます。

質 対する歳出予算額約1億7千万円の上位3費目はどのようなものか。

答 返礼品代で9千万円、ポータルサイトの委託料で約4千200万円、返礼品の通信運搬費で約2千500万円などである。

質 寄付金額3億円達成への取り組みは。

答 現在返礼品の9割がウニであるが、他にも新たな返礼品を提供できるように検討を重ねています。(若木)

民族共生象徴空間PR事業を重点的に

質 総務費の「北海道新幹線×nitan地域戦略会議経費」において、今後、本市の経済活性化のためには「民族共生象徴空間PR事業」を重点的に取り組むべきではないか。

答 昨年4月の民族共生象徴空間開設は、地域を訪れていただく重要な契機であり、魅力を含めて情報発信を行っている。開設1年前となる2019年度においては、これまでの取り組みをさらに強化して、観光客にエリア周遊促進を図って行きたいと考えている。(天神林)

社会福祉協議会への寄付金の使い道は

社会福祉協議会補助金が、近年減額傾向にあることを取り上げました。要因は、補助金算出基準を変更したことによる影響ですが、その基準変更には疑問が残ります。例えば、市民・企業などからの寄付金のうち、使途が指定されていないものについては、補助金から同額が減額されています。寄付をしていただいた方の地域福祉推進に対する意思が反映されていないことを問題視し、寄付文化醸成の時代から逆行していることを指摘しました。(辻)

社会福祉協議会補助金の減額要因は

補助金は職員の法定福利費と補助対象事業予算を合わせ、これから道福祉協議会交付金と市委託事業の受託金と会費を除いた金額ということでした。前年度よりも予算が約72万円減額となっている要因を質問したところ、委託事業に係る人件費の控除割合と寄付金のうち経常経費寄付金の全額控除の変更を行ったためと答弁がありました。社協は高齢者や障がい者に対する事業や、生活相談なども実施しており、減額は適当ではないと訴えました。(木村)

障がい者の相談体制強化と人材確保は

質 障がい者の地域生活支援事業における総合相談支援事業の予算増要因は。

答 障がい者は種類や程度によりさまざまな特性があり、専門的な相談支援が必要なため、支援センターの相談員を1名増員する。

質 相談件数はどのくらいか。

答 実利用件数は600人を超え、延べ相談件数は平均5千500件程となっている。

質 重要な相談員確保の取り組みは。

答 小学5年生から専門学校生が、夏休みハートフル体験学習を実施し広めている。(千田)

利用者に配慮した施設整備を

質 鉄南ふれあいセンターは指定避難所や各種の総会・催し物に使用されており、高齢者の利用も多い。

しかし男・女のトイレが洋式化されておらず、利用者からは多くの不満の声が上がっているが改善の考えは。

答 本格的な大改修の際に合わせ検討するが、応急的措置として、3階女子トイレの1箇所を簡易式洋式便座を設置している。

ドアの構造上、現在は1箇所だが、金具交換で増設可能と提案しました。(杉尾)

生活保護の運営は適正なのか

質 生活保護適正実施推進経費事業費の中で、診療報酬明細書内容点検委託料218万円の内容と、それをどのように生かしているのか、またその効果は。

答 傷病と治療内容の整合性を確認する内容点検を毎月行い、複数月の傷病を対象とした縦覧点検を行っている。

点検が終わったものについては、担当ケースワーカーが被保護者の病状確認に使用するなど、適正実施に活用されている。効果として、平成29年度の医療費が45万円削減された。(二瓶)



▲登別市鉄南ふれあいセンター

予算・決算委員会（平成31年度予算審査）各委員の質疑

生活・福祉に関する質問

インフルエンザ予防接種の助成拡大を

質 現在、高齢者インフルエンザの予防接種は、登別市と室蘭市以外で接種した場合は全額自己負担になる。

高齢化が進む中で、市外の介護施設などに入所する方も増えていることを考えると、登別市・室蘭市以外で接種した場合も補助の対象とすべきでは。

答 他都市の取り組み状況なども調査し、前向きに検討したい。

先行事例はないが、償還払いの方法を用いるなど、他都市に先駆けて実施するように求めました。

（小栗）

葬斎場の整備状況は

質 葬斎場の遊歩道のゴムチップタイヤが劣化により剥がれている。このため、歩行者がつまずいて転倒する恐れがあり、整備が必要ではないか。

答 ゴムチップタイヤが剥離している状況は把握しており、市で整備をすべしと考えている。

整備については、市内業者と協議を行った結果、アスファルト舗装にかかると整備費を平成31年度の予算に計上し、来場者が多く利用する駐車場側から優先的に実施する計画である。

（村井）

登別市の特定空家等の対策は

質 特定空家等の認定件数の推移は。

答 本市では平成29年8月に登別市特定空家等の判断基準を策定後、平成29年度5件、平成30年度8件の合計13件を特定空家と認定している。

質 改善指導の実績と効果は。

答 特定空家等の認定後、平成29年度に5件、平成30年度には7件の合計12件に指導を行っている。

効果としては、本年度2件の特定空家等の所有者が除却を行っている。

（井野）

学校教育に関する質問

眠育アドバイザー講習の受講としては

先日的一般質問において、睡眠障害が不登校の一因であることを指摘し、睡眠教育（眠育）の充実を訴えました。

眠育の先進地である福井県美浜町では、教職員が民間資格である「眠育アドバイザー」を取得し好評ですので、不登校・いじめ等対策経費を活用し、本市でも講座の受講ができないかをたしました。

眠育の重要性は認識しており、指導をしているが、現在、講座の受講までを考えていないと答弁がありました。

（戸井）

子どもの健康・体力アップに向けて

質 子ども健康・体力改善事業費では、市内小学校にスポーツ指導員を派遣し、体育授業のサポートをしているが、予算額が減額された理由はなにか。

答 指導員の学校派遣回数を減らしたため。代わりに平成31年度は、指導員のサポートのもと、放課後に親子で参加できる運動教室を実施する。

運動教室は、親子で健康・体力アップを図れる素晴らしい機会であるため、多くの方に参加いただけるよう周知の工夫を求めました。

（宮武）

お知らせ

市民の声を反映する

委員会へ
広聴・公開委員会

議会だより編集委員会は、5月から「広聴・公開委員会」に名称を変更しました。

平成31年第1回定例会最終日に委員会の名称及び所管事項の変更が可決され、登別市議会委員会条例の一部を改正しました。

議会だより編集委員会では、平成29年5月から議会だより・議会ホームページの所管事項と、議会の広聴機能について課題の検討を行ってきました。広報活動に市民の声を広く聴く広聴活動を合わせて行政活動に反映させ、その結果を広報する取り組みが必要との見解に至りました。市民の意見を議会が集約することで、市民のまちづくりにへの参加意欲の向上が図られるものと期待されます。

今後は、これまでの委員会活動に広聴機能を追加し、積極的に議会として市民の声に耳を傾け、まちの課題を共通認識し、行政への政策提言を行うとともに情報公開・広報活動に取り組みます。議会への市民の関心の向上を図り、その改善サイクルを回す取り組みの調査・検討を進める委員会としていきます。

（千田）



▲登別市葬斎場